



雪の新学期

校長 柿沼 隆一

新学期を迎え、始業式の日には前日から降った雪が積もっていたため、多くの生徒が足を滑らせないように注意して登校していました。寒さが一段と身にしみる新学期のスタートになりましたが、どの生徒も引き締まった表情をしていました。

始業式はテレビ放送で行いましたが、校長の式辞で話した内容を紹介します。

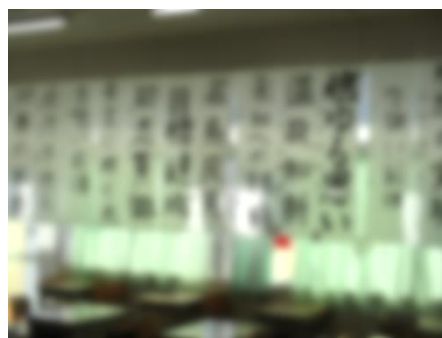
修学旅行でよく訪れる寺院の一つに宇治の平等院があります。昨年、3年生の修学旅行が中止になってしまったこともあり、思い付きで平等院のご住職に本校の3年生へのメッセージをお願いする手紙を送りました。もちろん面識もない方ですのでお返事はいただけないと思っていたところ、ご住職からお返事が送られてきました。ご住職は神居文彰（かみいもんしょう）さんで、テレビ朝日「お坊さんバラエティぶっちゃけ寺」などテレビに出演しているらしい著名な方です。今回はこれまで新聞等に掲載した文章



平等院鳳凰堂

をいくつかメッセージとして送っていただきましたが、その一つを始業式で紹介しました。「他者と生き切る感性といのちの行先を探求する抽斗（ひきだし）を常に開きやすくしたいものである。」という内容です。「自然をそのまま素直に受け止め、楽しむ感性を取り戻すとともに、大きな災害を自然の一部として受け止め、それを乗り越えるために他者と協同することが大切です。命は限りあるものですが、自然の中で周りの人との関りの中で生き切りたい。」と解釈し、生徒に伝えました。ご住職が伝えたいこととは隔たりがあるかもしれませんが、それぞれの感性で受け止めてくれればと原文を教室に掲示してあります。

今年も国語科の冬休みの宿題で出された書初めが、教室に貼りだされました。毎年同様のことを感じますが、一つ一つの作品に書いた人の特徴が表れています。私は紙いっぱいのにのびのび書いた作品が好きですが、本文と同様に名前も立派に書かれている作品が多かったです。書のうまい下手ではなく、毛筆で字を書くことが自分を表現する一つであると捉えて、今後も書初めを行っていこうと思います。



書初めの掲示風景

新型コロナウイルスの変異株オミクロン株による感染が広がっています。今後、学校の教育活動も大きく影響を受けることが考えられますが、改めてこれまで行ってきた感染予防の徹底を図りますので、ご家庭でもお子様の健康管理をお願いするとともに、少しでも体調が悪いときには欠席させるなどご協力をお願いします。

各学年の様子

新年になり、学年のまとめの時期となりました。感染症の影響でまだ教育活動が完全でない中、生徒たちは学習や部活動に取り組んでいます。特に3年生は自分の進路選択に向けて大切な時を迎えています。今月の学校だよりは各学年主任からそれぞれ学年のようすをご紹介します。

青学年のポテンシャルに期待しています

1学年主任 安永 基治

令和4年が始まりました。青学年の皆さんが入学してから早くも8カ月が過ぎました。入学したばかりのころは出身小学校ごとのグループで過ごしていることが多かったようでしたが、様々な行事や活動を経てクラスみんなで和気あいあいと楽しむ姿が多く見られるようになりました。

中学校では、クラスだけでなく委員会活動や部活動など他学年との交流も盛んです。また、職業講話や福祉体験などで地域の方との交流も行います。さらに本宿中では、インドネシアの中学校との交流もあり、子どもたちのコミュニケーションの範囲が一気に広がりました。

青学年には、素直で個性豊かな子どもたちがたくさんいます。そして互いの個性を認め合いながらコミュニケーションをとることができます。また、自分の役割をしっかり果たそうと努力することができます。先日、全員が職業講話のお礼の手紙を書きました。一人ひとりが自分の思いを1字1字丁寧につづりました。そのため、感激してお礼のお電話をくださる講師の方もいたほど気持ちの伝わる手紙を書くことができました。

青学年の子どもたちの「素直さ」、「優しさ」、「柔軟さ」、「真面目さ」は、かけがえのない力です。4月からは2年生へと進級し、中堅学年として本宿中を支える学年になります。自分たちのもつ力を生かし、本宿中の伝統を引き継ぎながら、新しく入ってくる後輩たちをやさしく導けるようになってほしいと思っています。



最高の学年にするために

2学年主任 西川 英子

2学期最後の集会で、2年生を前に話したことが2つありました。

1つ目は「目標をもって生活をしましょう」ということでした。

2年生としての学校生活もあと3か月です。この、短い期間の中で何か目標をもち、それを達成する喜びを感じてほしいのです。勉強でも部活でもお稽古事でも構いません。

学習にしる、練習にしる、ただ何となくやらされるからするのではなく、自分で決めた目標に向かって努力し、達成できた喜びを体感してほしいのです。その積み重ねが、一年後、自分の進路を切り開くための大きな原動力になっていくと思います。

まず3学期の目標をもち、達成できるよう頑張りましょう。

2つ目は「日々の生活を大切にしましょう」ということでした。

毎朝「おはよう」と声を掛け合う級友との時間も残りわずかです。いつも近くにいることが当たり

前と思わず、人とのつながりを大切に、より良い関係を築いてそれぞれのクラスを終えてほしいと思います。

そして迎える来年度、皆さんは最高学年になります。楽しいことがたくさんあるでしょう。でも同じくらいつらいことや苦しいこともあるかもしれません。そんなときに共に乗り越える仲間が存在を思いながら、それに打ち勝とうとする強い気持ちを養ってほしいと思います。

さあ、皆さん！残り3か月を土台とし、来年度を最高の学年にしましょう。



1年の締めくくり(9年間の集大成)

3学年主任 藤井 英之

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

さて、ウイズコロナで始まった令和3年度、オリンピックのおわりを迎えたあたりから新規感染者数及び重症患者数が急激に増え、医療現場のひっ迫がありました。そして、2学期はじめには臨時休業、そして、9月から約一か月間の分散登校がありました。登校と自宅からのハイブリット型オンライン授業がメインとなった分散登校では、生徒の柔軟性によってなんとか授業を進めることができました。

11月に予定していた修学旅行の中止を生徒に伝えることが本当に無念で仕方ありませんでした。しかし、多くの生徒が、目の前にある体育大会や文化発表会に向けて気持ちを切り替え、練習から本番まで前向きな取組を見せました。

余韻に浸る間もなく、進路関係の動きが始まりました。11月から面接シートの作成、12月からは面接練習に取り組むなかで、少しずつ受験生としての自覚が芽生えてきた生徒もいました。

3学期が始まるとすぐに公立高校の受検料納付、公立高校願書の清書など進路関係の動きが本格化してきました。私立高校の出願はインターネットによる手続きと受験料の振込が連動する学校が多く「親と一緒に～」という人が多いようです。

まさに、正念場を迎えた42葉のクローバ学年の生徒たちの「本気」を、我々教職員は最後の最後まで見届けていきたいと思っています。

教育活動継続にあたり、我々教職員一同は生徒をはじめ家庭、地域とともに手を携えながらウイズコロナを乗り越えていきたいと思っていますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。



2年生 百人一首大会

1月12日（水）に2年生の百人一首大会が行われました。これまでは武道場で行われることが多かった行事ですが、密集の回避ということで体育館での実施となりました。国語の授業でも百人一首に取り組んでいて、ここで2年生の国語担当の清水先生の好きな一首を紹介します。

「天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも」

阿倍仲麻呂の詠んだ一首です。彼は留学生として唐（中国）に渡っていました。長い異国での生活の末、ようやく帰国の目途が立った際、この歌が詠まれました。「天を見れば美しい月、あの月は春日にある三笠の山に出た月なのだなあ」。故郷への思いを募らせていることが伝わります。しかし、彼は日本に帰ることはできませんでした。

私も故郷を離れている身。ときに空を眺めて故郷に思いを馳せることもあります。そんなわけでこの歌が一番のお気に入りです。



【2月3月のおもな予定】

- 2/14（月） 新入生保護者説明会
学年末テスト（国・数・理・保体）
- 15（火） 学年末テスト（英・社）
- 18（金） 1年生 百人一首大会
- 22（火） 横浜市学力・学習状況調査（理科）

- 3/9（水） 第42回 卒業証書授与式
- 22（火） 1年生 球技大会
- 23（水） 2年生 球技大会
- 25（金） 修了式



感染症拡大防止のため3学期の授業参観は中止といたします。なお、新年度最初の授業参観・学級懇談会は4月16日（土）を予定しております。こちらも感染症の状況により中止や延期の可能性があることをあらかじめご承知ください。